

## 西ジャワにおけるアグロフォレストリー成立の地形的背景 Geomorphological background for traditional agroforestry in West Java

田村 俊和<sup>1\*</sup>, 大久保 悟<sup>2</sup>, 原科幸爾<sup>3</sup>, 北村 繁<sup>4</sup>, 武内和彦<sup>5</sup>

Toshikazu Tamura<sup>1\*</sup>, OKUBO, Satoru<sup>2</sup>, HARASHINA, Koji<sup>3</sup>, KITAMURA, Shigeru<sup>4</sup>, TAKEUCHI, Kazuhiko<sup>5</sup>

<sup>1</sup> 立正大学, <sup>2</sup> 東京大学, <sup>3</sup> 岩手大学, <sup>4</sup> 弘前学院大学, <sup>5</sup> 東京大学

<sup>1</sup>Rissho University, <sup>2</sup>University of Tokyo, <sup>3</sup>Iwate University, <sup>4</sup>Hirosaki Gakuin University, <sup>5</sup>University of Tokyo

ジャワ島各地で伝統的に行なわれている土地利用は、アグロフォレストリーの原型の一つとして国際的に評価されている。とくにプカランガンと呼ばれる一種のホームガーデンは、生産性が高いことと、きわめて手の込んだ土地利用が概して狭い敷地内に多層的に展開し、いわば人工化された熱帯雨林的景観が農家の敷地内に集約されていることで知られている。その一つの敷地内では、多様な畑、樹園地、養魚池等が、水（したがって浮遊・溶存物質）の流れに従って巧妙に配置されている。西ジャワでそのような土地利用がみられる土地の多くは、成層火山の山腹から山麓に広がるラハール堆積面起源の台地で、開析谷の上流で取水された水が、台地面よりやや緩勾配に設定された小水路や配管（しばしば竹が用いられる）で下流の台地面上に導かれ、台地面の傾斜にしたがって配分されている。ここから明らかなように、火山麓台地である程度の勾配が一方向に長く続くことが、貯水性のある火山体および生産性の高い火山灰起源の土壌と並んで、このような土地利用にとって重要な資源となっている。一方、水田は、山麓下部を除き、ラハール台地上ではなくそれを開析する谷の底部に主として展開し、そこから、台地上でプカランガン等を営む農民が米を得ている。すなわち、台地上の高度に集約化された生産性の高い土地利用は、隣接する開析谷底での水田によって支えられているとも言える。このように、少なくとも西ジャワ中・南部においては、ラハール台地や開析谷等、成層火山が用意した地形の配置が、それに付随する水文・土壌条件とともに、アグロフォレストリーにとって重要な環境資源として評価される。

キーワード: 地形環境資源, アグロフォレストリー, プカランガン, 火山麓台地, 西ジャワ

Keywords: geomorphic environment resources, agroforestry, pekarangan, volcanic footplateau, West Java